

灌木林

灌木林は最も多く、其の大部は紅柳にして、甚だ高からざるも、之が叢生する處は沙丘帶なるに因り、一見大森林に異ならず。又密生するが故に、通視通過共に困難なるもの少なからずとす。

材木と用途

建築用としては、松樹は新疆第一の良材とす(一見五葉松の如く其の葉單にして短く且つ密生す)。直幹にして屈曲するもの稀なり。北路の電柱は悉く松樹を専用し、巴爾魯克山の産多しと云ふ。榆樹は車の製造に用ひ、梧桐は所用少く、薪材とするも烟甚だしきが故に田家の烟突用とする位に止まる。紅柳は生木の儘直に薪材となるが故に便利の燃料とす。

人造林

以上は皆天然林なるが若し夫れ人造林に至つては、大楊柳林及び果樹林あるのみとす。南路の住民は、建築用薪材共に楊柳を用ゆるに因り、盛に之を植うるの風あり。

大道の兩側に楊柳、棗、桑等を並植するを常とせるが、夏季の旅客に取ては甚便なりとす。

若し清國が新疆に移民して、利源を開發せんと欲せば、先づ第一着に植林を勵行